

新たに棋士となった 高橋佑二郎四段、瀬ヶ口笑保人四段、吉池隆真四段へ 「J:COM賞」贈呈

— 「J:COM杯 3月のライオン子ども将棋大会」第1回全国大会優勝・瀬ヶ口さんがプロの棋士に —



<24年9月16日 子ども将棋大会 関東大会内「J:COM賞」贈呈式の様子>
JCOM株式会社 上席執行役員 大橋一博(左)、高橋佑二郎四段(右)



<24年10月14日子ども将棋大会 東海大会内「J:COM賞」贈呈式の様子>
JCOM株式会社 常務執行役員 田口和博(左)、瀬ヶ口笑保人四段(中央)、吉池隆真四段(右)

JCOM株式会社(J:COM、本社:東京都千代田区、代表取締役社長:岩木 陽一)は、今後の日本の将棋界を担う若者たちを応援すべく、9月16日(月)に高橋佑二郎四段、10月14日(月)に瀬ヶ口笑保人四段、吉池隆真四段へ「J:COM賞」を贈呈しました。

J:COMは、「J:COM杯 3月のライオン子ども将棋大会」が第10回を迎えた2021年から、日本将棋連盟の棋士の養成機関である「奨励会」への支援として毎年寄付を行っています。また、新たに四段に昇段しプロになった棋士の方々へ今後の活躍を祈念し、「J:COM賞」として盾と記念品(仕立券付スーツ布地)を贈呈しています。なお、本賞の贈呈は、将棋に取り組む子どもたちの目標となる存在になってほしいという願いから、「J:COM杯 3月のライオン 子ども将棋大会」の会場を中心に行っています。本年は7月27日(土)の山川泰熙四段、9月16日(月)に高橋佑二郎四段に加え、今回の瀬ヶ口笑保人四段、吉池隆真四段という計4名に贈呈しました。

J:COMは、サブマテリアリティに掲げる「次世代のチャレンジ支援」の一環として、小中学生による子ども将棋大会の主催、奨励会への寄付、新四段への「J:COM賞」の贈呈を行い、将棋界を担う次世代を支援しています。今後も将棋文化の普及を通じて、夢に向かって挑戦する子どもたちや、プロの棋士という狭き門に向かって一途に取り組む若者たちを応援してまいります。

【J:COM賞 受賞者について】

高橋佑二郎四段は、千葉県船橋市出身。小学生の卒業文集に「プロ棋士になる」と書いた夢を叶え、奨励会の在籍13年目にしてプロの棋士となる。座右の銘は「心如水(しんはみずのごとし)」。

瀬ヶ口笑保人四段は、三重県熊野市出身。奨励会の在籍は11年4カ月。現在は大学の医学部に在籍していて医師免許取得を目指している。「第1回J:COM杯 3月のライオン子ども将棋大会」全国大会優勝者でもあり、大会優勝者では初のプロの棋士となる。

吉池隆真四段は、東京都荒川区出身。奨励会の在籍は9年。小学1年生で将棋と出会い、地元で師匠である室岡八段が開いた将棋教室に通い始めたのが将棋を始めたきっかけ。永瀬拓矢九段の研究会に参加している。

高橋佑二郎四段の受賞コメント

皆さんの前で表彰していただく経験は、自分が子どもの頃、小学生大会に出て以来でしたので嬉しかったです。長期的には、40代50代も第一線で活躍して、生涯600勝(将棋栄誉賞)することを目標にしています。棋士を目指されるお子さんには厳しい道のりが待っているかと思いますが、大会での楽しかった思い出を忘れずに、また奨励会に入った時もその気持ちを忘れずにいてほしいです。そして棋士を目指されない方も、将棋を通し、大人になった時に思い返せるような楽しい思い出をつくってほしいと思います。

瀬ヶ口笑保人四段の受賞コメント

私は第1回 J:COM 杯の全国大会に参加しましたが、まず大阪大会で優勝して、「初めて全国の大会に行ける、東京に行ける」と嬉しかったことを覚えています。全国大会で優勝できたことはその後の自信につながり、奨励会にもつながったと感じています。棋士はロングランなので身体にも気をつけながら一局一局を積み重ねていき、大きな大会で優勝したいです。
今の将棋を楽しんでいる小中学生は、頭が熱くなるまで考え続けて将棋を上達させてほしいなと思います。論理的な思考能力や頑張ったという経験も一生役に立つと思います。

吉池隆真四段の受賞コメント

J:COM杯の神奈川大会に出場したときは準優勝でとても悔しかったです。後手横歩取りで楽しんで指した記憶があります。尊敬している棋士の永瀬先生と研究会をご一緒させていただく中で、言葉では言い表せない熱量をひしひしと感ずることができ、そういった経験からもこのようにプロになれたと思っています。今後は、いろいろな棋士の先生と指す機会があるので、楽しみつつ、勝ち星を積み上げてゆくゆくはタイトルを獲得できるような棋士になりたいです。将棋は、時に楽しみよりも、負ける怖さが勝ってくる時がありますが、大会に参加する子どもたちにも、将棋は楽しいから指しているという気持ちを忘れずにいてほしいです。

<2024年度 J:COM賞贈呈棋士>

山川泰熙四段(7月27日(土)／東北大会)

高橋佑二郎四段(9月16日(月・祝)／関東大会)

瀬ヶ口笑保人四段、吉池隆真四段(10月14日(月・祝)／東海大会)

<第13回J:COM杯 3月のライオン子ども将棋大会 概要>

「J:COM杯 3月のライオン子ども将棋大会」(主催:JCOM株式会社、株式会社囲碁将棋チャンネル／共催:公益社団法人日本将棋連盟／協力:白泉社)は、小中学生に将棋の楽しさを知ってもらうとともに、将来の棋士を目指す小中学生の登竜門となる大会を目指して、2012年にスタートしました。今年で13回目を迎えます。

大会名	「第13回J:COM杯 3月のライオン子ども将棋大会」
クラス	全国クラス: 上級者～有段者レベルの参加者によるトーナメント形式の将棋大会 各地区大会の成績上位者が全国大会に進出 交流クラス:将棋を楽しく指すクラス(地方大会の入賞者には大会ごとに賞品進呈)
地区大会	2024年7月21日(日)／北海道大会(北海道札幌市) 2024年7月27日(土)／東北大会(宮城県仙台市) 2024年8月12日(月)／九州大会(福岡県福岡市) 2024年8月24日(土)／関西大会(大阪府高槻市) 2024年9月16日(月)／関東大会(東京都台東区)

	2024年9月23日(月)／中国大会(広島県広島市) 2024年10月14日(月)／東海大会(愛知県名古屋市)
全国大会	2024年11月2日(土) 会場:東京・将棋会館
特設サイト	https://www2.myjcom.jp/special/user/event/kids-shogi/
アーカイブページ	過去の大会記録や、全国大会決勝戦の棋譜、全国大会特番映像などが確認できるアーカイブページを公開しています。是非ご覧ください。 https://www.jcom.co.jp/corporate/sustainability/community/shogi/

JCOM株式会社について www.jcom.co.jp/

JCOM株式会社(ブランド名J:COM、本社:東京都千代田区)は、1995年に設立された国内最大手のケーブルテレビ事業・番組供給事業統括運営会社です。ケーブルテレビ事業は、札幌、仙台、関東、関西、九州・山口エリアの11社65局を通じて約563万世帯のお客さまにケーブルテレビ、高速インターネット接続、電話、モバイル、電力、ホームIoT等のサービスを提供しています。ホームパス世帯(敷設工事が済み、いつでも加入いただける世帯)は約2,229万世帯です。番組供給事業においては、14の専門チャンネルに出資及び運営を行い、ケーブルテレビ、衛星放送、IPマルチキャスト放送等への番組供給を中心としたコンテンツ事業を統括しています。

※世帯数は2023年3月末現在の数字です。

J:COM のサステナビリティ

J:COMでは、事業活動を通じたサステナビリティ経営を推進しています。お客さまの豊かな「暮らし」を支える企業として、持続的な「地域社会」へ貢献を行い、その土台である「地球環境」と関わるすべての「人」を対象として、4つのマテリアリティと、さらに具体化した12のサブマテリアリティを2023年度に再設定しました。

<本事業と関連するマテリアリティ>

マテリアリティ:「安心安全で持続可能な地域社会への貢献」 サブマテリアリティ:「次世代のチャレンジ支援」



私たちは企業理念を実現するための大切な価値観に「CHALLENGE(挑戦)」を掲げています。未来を担う次世代の教育・文化・スポーツなど多岐に渡る分野での挑戦を支援し、地域社会の活性化に貢献していきます。